

# 人文研紀要

第50号～第52号(2004年)

◆第50号—2004年(2004年10月発行 A5版311頁)

詩歌の愛唱ということ	小菅 奎申
The Problem of Musical Mimesis and Language in Adam Smith	Michiko KANETAKE
19世紀アメリカのOra(torica)l Culture —ホームズ父子とジェイムズ兄弟—	武藤 脩二
声の協演 —アイルランド現代詩人による3枚のCDについて—	真鍋 晶子
「短詩」から「ロマン」へ —「ブルターニュの素材」における口承性をめぐって—	渡邊 浩司
BOSWELL IN THE INNER TEMPLE	Hitoshi SUWABE
ニューイングランド方言の音節に主強勢の無い母音の特徴	後藤 弘樹
『ラッキー・ジム』における陽気な絶望	丹治 竜郎
『活火山の下』の舞台	野呂 正
ブラウニングの「ピッパの歌」は「春の歌」か「元旦の歌」か —『海潮音』を読み直す—	岡地 嶺
墮天使たちの影 —「ファスピンダー論争」顛末—	飯塚 公夫
アンネ・フランクの悲劇が起きた理由	飯森 伸哉
演劇としての落語 —『らくだ』における笑いの分析—	黒田 絵美子

◆第51号—2004年(2004年10月発行 A5版329頁)

鄱陽湖の戦いへの道	川越 泰博
朝鮮の開港期における米の輸出(2)	李 榮娘
『ザルツブルク大世界劇場』 —乞食の変容を中心に—	戸口 日出夫
田川大吉郎と中国 —日本人キリスト者と日中戦争—	渡辺 祐子
日本におけるカトリックの典礼音楽	新垣 壬敏
Exceptionalism versus Universalism: Jesuit and Friar Rivalry in Sixteenth Century Japan	Derek MASSARELLA
In the Light of Japan: The Transformation of European Aesthetics from Romanticism to Modernism	Ciaran MURRAY
忘れられた独創的天才 —W.L.ボウルズについて—	笹川 浩
眼差しの恍惚	杉村 裕史
旅することと物語ること —イリヤ・トロヤノフ『インドの内奥の岸辺にて』について	鈴木 克己
記述意味論ノート(1) —『分類語彙表』と日本語の意味体系—	野田 時寛
渡嘉敷島における2つの「浜下り(ハマウリ)」についての覚書	長谷川 曾乃江
盧溝橋事件における国民政府外交部と冀察政務委員会 —外交部档案「盧溝橋事件—本部與冀察当局商洽情形」を中心に—	服部 龍二

◆第52号—2004年(2004年10月発行 A5版318頁)

人類創造と洪水神話 —メソポタミア神話の余波—	金光 仁三郎
『三博士(マギ)の聖史劇』 —懐疑心から信仰の確信へ—	仮屋 浩子
The Fair Unknownとしてハリー・ポッター —アーサー王ロマンスとの関わり—	小路 邦子
ヒルデガルト・フォン・ビンゲンの幻視における視点の問題について	鈴木 桂子
A Table on a Stage: Examining How to Reproduce the Late Medieval Dramatisation of the Last Supper(2)	Yumi DOHI
La métamorphose du Musulman historique Yâghi Siyân en saint chrétien à travers les épopées de la croisade	Naoyuki OGAWA
擬マカリオスにおける祈りの意義	土橋 茂樹
ふたつの方向	中村 昇
言葉と論理 —ハイデガーが現代論理学を超えて求めたもの—	古田 裕清
時の「中庭」に —ツェラーンとマンデリシュターム(3)—	関口 裕昭
失われた自己イメージの回復 —アンリ・オジェ編纂によるヴェトナム版画集(1908—1909)の復刻—	菅野 賢治
エミール・マッソンを巡って —マルセル・マルチネとジャン＝リシャール・ブロック—	高橋 治男
ベルナルド・デル・カルピオの伝説(二)	福井 千春